



希望をつなぐ

東京2020オリンピック 聖火リレー

11人でつないだ「希望の灯」なごり灯

4月17、18日、県内で東京2020オリンピック聖火リレーが行われました。
三豊市では、4月17日に仁尾町で開催され、仁尾公園から父母ヶ浜までの約2kmのコースを11人のランナーたちが駆け抜けました。
この日は朝から雨が降り続いていましたが、次第に天気は回復。聖火が市に到着する頃には、雨はすっかり上がり、空には晴れ間がみえました。多度津町から無事つながれた聖火は、人々が見守るなか、このあと観音寺市へとつながりました。
1年延期となったオリンピック聖火リレー。長期にわたるコロナ禍を、私たちはさまざまな思いで過ごしてきましたが、このときばかりは聖火がまちに笑顔を届けてくれました。

▼最終走者は海をバックにゴールに向かいます

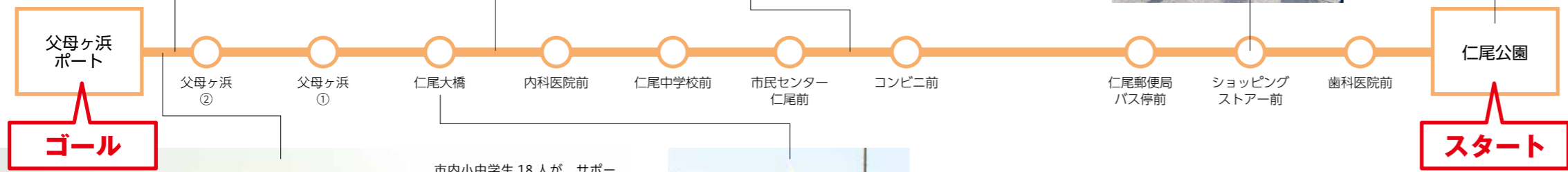


▲沿道で見守る人に手を振りながら走ります

▼聖火受け渡し時の“トーチキス”



▲トーチに火を灯し、スタート!



市内小中学生18人が、サポートランナーとして最終走者とともに父母ヶ浜を駆け抜けました



▲ランナーたちは、自分たちで考えた思いの“トーチキスポーズ”をとります



▲ランナーたちがバスに乗り込み、スタート地点に向かいます



▲交通整理や駐車場整理など、約200人がボランティアとして参加しました



▲リレー開始前には砂浜周辺でくつろぐ人も

リレー前の
ひとコマ

父母ヶ浜で見られる 海浜植物

父母ヶ浜には、たくさんの海浜植物や海の生き物が生息しているのをご存じですか？

夕暮れ時には、人であふれかえるほど人気となった父母ヶ浜ですが、一方で砂浜をたくさんの人が踏みしめることによって、浜の緑は昔よりも減ってしまいました。

次の世代に昔ながらの砂浜を残したい、人口流出が進むまちで、子どもたちにまちに誇りを持ってもらいたいと、浜を守り続ける人たちがいます。

豊かな自然は、一度壊れるとすぐには元に戻りません。砂浜を歩くとき、もし足元に小さな植物や生き物がいたら、どうか気にかけてあげてください。



清掃活動に参加してみませんか？
毎月第1日曜日の早朝に行っています。

6月6日(日) 午前6時～
7月4日(日) 午前6時～

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止または延期となる可能性があります。



第10走者
なごし えりこ
名越 映理子さん

支えてくれている家族や地域の人に感謝の気持ちを込めて走りました。たくさん応援してもらえたので、これからも頑張れるよう、パワーの源にしたいです。



第1走者
たかはし のん
高橋 音さん

これまでお世話になった人に見てもらう姿を見てもらいたくて挑戦しました。これからも、パラリンピック競技であるポッチャや卓球など、いろいろなことにチャレンジしたいです。

第11走者
ふじた かずひと
藤田 一仁さん

25年間父母ヶ浜の清掃を続けてきた「ちちぶの会」の先輩方の思いがあったので、聖火リレーの舞台に選ばれたときは嬉しかったです。綺麗な浜を皆さんに届けられて感慨深いです。



第4走者
くらもと しょうへい
倉本 昌平さん

緊張もありましたが、皆さんの笑顔と声援で楽しく走れました。スノーボードが好きで毎年数名にレッスンをしています。冬期オリンピックの種目にもなっているスノーボードを応援してくれる人が増えるよう、今後も活動を続けたいです。



第3走者
もり かずお
森 一恵さん

走らせていただけることに感謝しながら走りました。沿道の皆さんの笑顔に感動しました。地元の父母ヶ浜を大きく取り上げてもらえることにも感謝しています。

舞台裏 Story

浜を守り続ける 地域の力



浜を守り続けて25年、ちちぶの会、聖火リレーの舞台となった父母ヶ浜。この浜がきれいな状態で保たれているのは、約25年間、清掃活動などを続ける「ちちぶの会」の皆さんのおかげです。

「活動を続けてきた先輩方の思いを引き継ぎ、昔ながらの浜を次の世代に残したい」と話すのは、ランナーとして聖火リレーに出場した「ちちぶの会」会長の藤田一仁さん。「きれいな浜を見てほしい」という思いで、リレー当日も、会のメンバーと朝6時から1時間程度の清掃を行ったそうです。「ちちぶの会」は、約25年前、父母ヶ浜一帯の開発計画が持ち上がったとき、美しい浜を守ろうと仁尾町内の有志が清掃活動を始めたことがきっかけで発足。以来、暑い日も寒い日も、毎月1回の清掃活動を欠かさず続けてきました。

「人はたくさん来るようになって、きれいな砂浜は守っていかなければなりません。世の中が変わるスピードは早いです。自然環境を守りながら、豊かさを感じる発展でなければいけないと思っています」

また、同じく聖火リレーに出場した森一恵さんも、会の活動を当初から続けてくれた一人です。

「毎日清掃に来てくれる人もいます。毎日、発展はありがたいことですが、一番大切なのは、地元の人に愛される父母ヶ浜であること。聖火リレーは終わりましたが、この砂浜を次の世代に残していくことが、私たちの本当のつなぐべき務めだと思っています」

清掃活動は口コミで広がり、今では市外からも多くの人が参加しています。地道な活動で浜を守り続ける皆さんの思いは、昔も今も変わらず引き継がれています。



▲4月25日の清掃活動を行った、ちちぶの会の皆さん



▲約1時間ほどの作業で、軽トラックの荷台1台分のごみが集まりました

▼広い砂浜を手作業で清掃します



▲(左から) ちちぶの会 会長の藤田一仁さん、森一恵さん、安藤稔さん